
おっぱいをチートさせる男

百合姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おっぱいをチートさせる男

【Nコード】

N1936Z

【作者名】

百合姫

【あらすじ】

注・この物語に下ネタはあまりありません。タイトルで下ネタを警戒した人にはご安心を。期待した人には申し訳ありません。

この物語は二次に良く見られる噛ませ犬として出される性格の悪いオリ主が主人公であり、そんな主人公が改心したけれど前の評判が評判なだけに肩身の狭い思いをする物語です。

(予定では)

いまいちイメージがわかないって人はとりあえず読んで見ると良いと思うよ！

作者が現実逃避としてバカな作品を書きたいと思ったがゆえの投稿です。ゆえにギャグテイスト。シリアスもあまり期待はしないでください。

そして更新速度に過度な期待はしないでください。

なおかつジュエルシード事件のみで完結するかもしれません。

またイベントの時系列が結構変わります。たとえばジュエルシード事件がなのは9歳ではなく、13歳の時くらいになります。

ぶろろーぐ(前書き)

始めに言っておきます。

感想などではオブラートに包んでね。

作者は非常に打たれ弱いのです。

ぶろろーぐは三ページ分くらい。

噛ませ犬的勘違い系主人公のアホさ具合をお楽しみください。

まあそんなに量があるわけでもないですけども。

プロローグが終わると勘違いから改心します。

それとおそらく下ネタはあまり無いと思います。今回がピークってくらいかも。

今のところヒロインはいつそのことフェイトの母のプレシアにしてしまおうかとも思っていたりして。

レベル高すぎるかな？

そしてご都合主義は出来るだけ省きたいとは思ってます。期待はしないで欲しいですが。

ぶるるーぐ

おっばい。

ある人は言った。

それは神秘のベールに包まれた神々の宝玉だと。

ある人は言った。

そこに全てを置いてきた。探し出せ、その秘宝を、と。

ある人は言った。

女体最高!!!と。

ある人は言った。

胸とは。胸ではなくおっばいである、と。

ある人は言った。

おっばいを求めずして何を求める？

富か？名誉か？

否!!!

男として生まれたからには至高のおっばいを求めずして何とする。
と。

ある人は言った。

おっばいに何が詰まってるかだつて？

HAHAHAHA!何を今更なことを。

・・・ふっ。

浪漫が詰まってるのぢ。

ある人は言った。

いや、胸に詰まってるのは脂肪だろ？」と。

ある人は言った。

そついう夢の無い奴は腸をぶちまけて死ね、と。
はらわた

ある人は言った。

人体の神秘。言い換えるならそれだね。と。

ある人は言った。

あの曲線美。柔らかさ。重量感。すべてにおいてマーベラス、と。

ある人は言った。

芸術はおっぱいだ！と。

ある人は言った。

小さなおっぱいも大きなおっぱいも等しく皆おっぱい。全てのおっぱいを私は愛そう、と。

『本当にそれで良いの？』

「ええ、もちろん。」

『男神じゃない女神の私には分からないけど・・・そんなので良いの？』

「はい。」

『・・・ま、まあ頑張ってる？』

「ありがとうございます。俺、良い嫁さんを探します。」

『別にそんな決意を私に聞かされてもドウ答えば良いか・・・』
「暗に貴方に嫁になってくれないかな？」

『H A H A H A、無理。貴方みたいな変態、好みじゃないから。』

「し、失敬なつ！！」

揉むにしても決して無理やりには……」

『……はあ。とつとと行って頂戴。気持ち悪いもの。貴方。』

「ふふふふ。これで俺のオリ主ハーレムが……ぐふふふ。」

『本当に気持ち悪い。……じゃあね。』

「はい、本当にありがとございました。」

こうして1人の男。

オリ主でイケメンな彼が異世界でハーレムを作るべく頑張ってみる物語が始まる。

はつきり言おう。

彼のその夢はかなわないだろう。
なぜならば。

『……勘違い系オリ主つてところかしら。

あんなの好きになる子が居たら……不憫すぎるわ。』

この物語は勘違い系の彼が主人公の物語である。

最近の二次創作には転生オリ主の他にままオリジナル主人公が出てくるが、その中でもヒロインに纏わり付く嫌われ者の勘違い系の噛ませ犬オリ主。

この物語は、その噛ませ犬側の彼から見た物語である。

果たして彼はまともな主人公となりえることができるのか？
気味悪がられずにヒロインに近づくことができるのか？

さてはて皆様。

「魔法少女リリカルなのは」の世界によつて。

ぶろろーぐ2

とある時刻、とある家庭にて。

ハイハイをする子供が居た。

もとい物語の主人公、相馬^{そしうま} 響^{ひびき}である。

見た目は銀髪にオッドアイ。

彼の前世の生涯が閉じたのは中学2年。

まさしく厨二病に疾患してピークに当たる時期である。

そんな頃合に死んでしまった彼がそんな見た目になるのは当然のこととで、厨二病を脱する頃合。もとい7歳になる頃にはきつと自分の容姿に悶絶するだろう。「なぜあの時に、こんな奇抜な見た目を選択してしまったのだ!」と。

多分。きつと。おそらく。

してくれると良いな。

現在の彼は早速発情していた。

「……ふふふふ。俺の母親がよもやこんなに美人だとは……近

親相 げふんげふん。も、悪くは無い。

何、俺のイケメンを持つてすれば……」

ドンビキである。

生まれて数年で母親とのチヨメチヨメを考える人間。

あまりの非常識ぶりに本当に貴様、日本人か?と問いたくもなるのだが、自然界では親と子の交配は至極当然のようにあるし、血統的にも問題は無い。

別に良いのでは?という気もしてきたのは、あまりの思考回路ゆえに彼を人間としてではなくその辺の獣と同列視してしまっている

いうことなのだろう。一応反省しておこう。
あれでも彼は人間なのだ。
それはさておき。

「あら？おっぱいが欲しいのかしら？」

母親である相馬 文香ふみかに遠慮なくむしゃぶりつくところを見て戦慄
しつつも思うのは、目が血走りすぎで怖いと言うことである。
目が血走りながら乳房をしごきつつ吸い付く赤子。
下手なホラーよりも怖い。

「……うますぎるっ！！！」

と吼えながらも母親の乳房にがつつく響。

全国の赤子や君のような子供を産んでしまった文香に謝ってあげた
いほどにその姿は醜かったと言っておく。

これを見ても自然な笑みを絶やさないと母は母親は偉大である。

否、文香が偉大なのだろう。絶対。確実に。それしかない。

きつとそう思う。

そもそも彼の毛の色や目の色的にこれを我が子として愛せる彼女は
まさに聖母と言えよう。

「……くっ……いかん、もはや眠くなってきた。」

今更であるが彼の言葉は全て「あー」とか「うー」とかである。赤
ん坊なのだから当然のこと。

それを意識してお茶の間に届けているこの作業。

早くも苦痛と化してきたのだから気が滅入る。

そして彼はそのまま寝た。

寝る子はすくすく育つと言つがこのまま眠るように死んでくれたほうが世のため人のため。

何よりも罪の無い母親が救われるような気がする。

「ふふふ・・・凄い旺盛な食欲ね。」

ちゃんと食べたのを見て安心したのか文香は満面の笑みを浮かべた。母親としては至極真つ当なセリフのだが、それが向けられた相手が彼となると複雑な気分である。

・・・ここに、ここに聖母があるきん。眩し過ぎて目が開けられないんじゃないあ・・・

せめて彼女の元で彼が真つ当な道を歩めるよう、祈るしかるまい。

余談ではあるが母子家庭で父親は蒸発済み。

あまり良い人ではなかったそうな。

ぶろろーぐ2（後書き）

全体的にブローグは短いです。

なぜかあまりネタが思い浮かばないもので・・・先のほう先のほうはガンガン思いついているのですが。

よって、ちゃっっちゃと進めることにしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1936z/>

おっばいをチートさせる男

2011年12月7日07時49分発行